

紙版 ハコブネ×ブックス vol.17

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



となりのアブダくん

作者 黒川裕子
出版社 講談社
発行 2019年11月
ISBN 978-4065175743

review



小学六年生の男子、春夜の趣味は**裁縫**や**編みもの**、刺繍などの**手芸**が**好き**。別に全然かまわないことです。ところが、**年頃の男子**となると心中は複雑です。同級生にからかわれた経験から、自分の趣味を誰にも知られたくないと心をとざしてしまおう。**男なのに、男のくせに、男らしくない**、そんな言葉がいつも頭の中をよぎって、自分の**好き**に素直になれない。物語はそこからの心の軌跡を描きます。共通した題材でも趣は異なり、物語がたどる着く場所も違います。ジェンダーや友だちとの関係、人として生きる姿勢まで、多様なテーマがここにあります。素材に真摯に向きあい、技術を向上させる**ひたむきな努力**。好きなことが人と違う自分を理解してもらおうために、**諦めずに伝えることの大切さ**も描かれます。一針一針に思いをこめて丁寧に着や糸を扱い、着る人や衣服の作り手の気持ちにも寄り添っていく**手芸男子**たちの心の声を、是非聞いてください。

特集

男なのに？

小学六年生の男子、春夜の趣味は**編みもの**。編みぐるみを作ったり、ニットに興味を持ったり、習っている空手よりも編みものに夢中なのに、その趣味が**バレ**ることを春夜は恐れていました。学校でパキスタンからやってきた転校生のサポート係を先生に押しつけられた春夜は、**アブダくん**と呼ばれる彼を、毎日家まで迎えに行き一緒に登校するようになり、なかなか打ち解けられず、イスラム教徒としての特別な慣習から、彼がクラスで浮き上がっていくことに春夜は戸惑います。それでもアブダくんとの関係を通じて春夜は、一人ひとりが違い、自分もまた**人と違って良いのだ**と考えられるようになっていきます。異質な自分であっても、誇りをもって**人に理解を求めていい**。やがて自分の趣味をカミングアウトした春夜は、新しい世界が開かれます。



ぼくのまつり縫い

手芸男子は好きっていいない

作者 神戸遥真
出版社 偕成社
発行 2019年10月
ISBN 978-4036491209

review



中学一年生の男子、優人の趣味は**裁縫**。妹の人形のドレス作りで手芸に目覚めて以来、安いハギレを買ってきては巾着作りに励んでいました。放課後の教室で、ほつれたズボンの裾上げをしているところを、**被服部の糸井さん**に見つかった優人は、裁縫ができることを見込まれて、演劇部の衣装作りの応援に駆り出されます。**本格的なドレス作り**ができる被服部に惹かれながらも、小学生の時の裁縫実習で**フリル好き**をからかわれたことが、優人の心を苛んでいました。距離を置かなくて自分を抑えようとするのは、本当は心が求めていることより、自分やまわりに嘘をつくことより、好きなものを好きと言う方がいい。悩み続けるトネルを抜けて、ファッションショーで**ブレイクするまで**。チャレンジする勇氣が**隠れ例手芸男子**を変えて行きます。



ライラックのワンピース

作者 小川雅子
出版社 ポプラ社
発行 2020年10月
ISBN 978-4591167878

review



小学六年生の男子、智広の趣味は**裁縫**。小さなバックや巾着などの袋もの作りが好きで、姉からは**裁縫少年**と呼ばれ、繕いものを頼まれることもあります。智広に裁縫の技術とスピリットを教え、針目を褒めてくれた祖母が亡くなって三ヶ月。祖母が修繕仕事で預かっていたワイシャツを届けに行った里見ハッピー園で、智広は清楚なお嬢さまのような同い年の女の子と出逢います。ワンピースの裾の短さを気にかけていた彼女に、後日、そのお直しを依頼された智広。リラのお直しを、うっかり引き受けてしまった智広は、祖母が遺した記録を頼りに、難しい素材で作られた、その**ライラック色**のワンピースに挑みます。自分の趣味を恥ずかしく思い、友だちにも打ち明けられなかった智広が、仕事にとりくむ大人の矜持に動かされ開眼していく爽やかな物語です。



水を縫う

作者 寺池はるな
出版社 集英社
発行 2020年5月
ISBN 978-4087717129

review



高校一年生の男子、清澄の趣味は**刺繍**。幼い頃から祖母に縫いものを教わり、刺繍をしている時が一番落ち着くようになった清澄でしたが、**ソーイングセット**を持ち歩いていることを同級生にからかわれ、友だちのいない中学時代を過ごします。高校に入學して最初の自己紹介で「縫いものが好きなので手芸部に入るかもしれません」と宣言したのは、**覚悟**の表明でした。そんな折、結婚式を挙げる姉が、気に入ったものが無いからウエディングドレスを着たくないと言ったため、清澄は自分が縫うともちかかれます。**女なのに可愛らしい格好**をしたくない姉の複雑な気持ちと向き合い、ドレスを仕立てる、**男なのに手芸が好き**な清澄。それぞれが胸に潜めた思いや譲れない一線を明らかにしながら、良識の抑圧を緩やかな繋がりで見えていく**家族の姿**が描き出されます。

特集
男なのに？



ひかり舞う
(中川なをみ)
ポプラ社 2017年

武士の子ながら剣術が得意ではなく、**着物や衣服に惹かれてしまう**少年、平史郎。戦場で討ち死にした父や、母とも別れ、ひとり生きていく手段としたのは**針仕事**でした。男のくせに、と蔑まれたこともあり、馬鹿にされても腐ることなく、自分の仕事を丁寧に全うして、誠意をもって人に対峙する、**戦国時代の裁縫少年**にもご注目ください。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.17

2021年2月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト **ハコブネ×ブックス** (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



Twitter
連携して
います。

© tomoostretch